

# 「サイバーセキュリティセミナー2023」を開催 《リアルな事例から学ぶ、サイバー攻撃を意識したBCPの重要性》

- 総務省四国総合通信局は、令和5年1月27日（金）に「サイバーセキュリティセミナー2023」を高知市内（ハイブリッド）で開催し、自治体、企業、経済団体・商工団体、病院、大学・高専、警察、国の機関等から、現地・オンライン計約250名の参加がありました（このセミナーは「四国サイバーセキュリティネットワーク」の取組の一環として開催しました）。  
<https://www.soumu.go.jp/soutsu/shikoku/chiiki/shikoku-cybersecuritynet.html>
- 最新のサイバー攻撃の動向と対策等に関する講演やリアルな被害事例等を踏まえたパネルディスカッションを実施し、サイバー攻撃を意識した事業継続計画の重要性等について理解を深めていただいたほか、会場では、実践的サイバー防御演習（CYDER）のデモ展示を行いました。

■ 講演1 「サイバー攻撃の最新動向と対策事例」  
国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）  
招聘専門員 萩原 健太氏から、サイバー攻撃観測・  
分析システムによる観測結果やランサムウェアの被害状  
況に加え、セキュリティの大切な視点等についてお話し  
いただきました。



■ 講演2 「サイバー攻撃を意識した事業継続計画  
（BCP）の重要性」  
株式会社ラック サイバー・グリッド・ジャパン 主席  
研究員 加藤 智巳氏から、つるぎ町半田病院事案  
の発生要因等の解説や、BCPに盛り込むべき初動対  
応の例等の紹介をいただきました。



■ 講演3 「サイバー攻撃による電子カルテ停止、  
当日の対応～災害用BCPは機能したか？」  
つるぎ町 病院事業管理者(つるぎ町立半田病院)  
須藤 泰史氏から、ランサムウェアによる攻撃を受けた  
当日から数日間（急性期）の実体験をもとに、災害  
用BCP策定と訓練の有用性、不十分だった点等につ  
いて、ご説明いただきました。



■ パネルディスカッション 「ランサムウェア被害事例と求められる対応策」  
NICT 萩原氏をコーディネーター、ラック 長谷川 長一氏をアドバイザー、  
島根県邑南町 新井 紀弘氏、半田病院 須藤氏、高知県 本村 優希氏  
をパネリストとしてお迎えし、意見交換を実施しました。



<パネルディスカッション>



<会場の様子>

■ 実践的サイバー防御演習（CYDER）のデモ展示  
NICTが実施するCYDER（インシデント発生  
から解決までの対応手順を学ぶ演習）について、  
デモ機を使って参加者に体験いただきました。



<デモ展示>

\* 参加者アンケートより  
「実際にサイバー攻撃の被害にあった事例を知ることにより、  
初動対応やセキュリティシステムの穴などに意識を向けるべきことを認識できた」  
「インシデントの当事者からリアルな体験を直接聞くことができ、大変参考になった」  
「インシデントが発生した場合にどのような対応が必要なのか、あらためて考えさせられた」

（お問い合わせ先） 情報通信部 サイバーセキュリティ室（089-936-5044）